

1 鎌倉道・日蓮ゆかりのコース (約5.1km)

～ 上飯田 古の街道と史跡を訪ねて ～

上飯田・下飯田・俣野から村岡・深沢・化粧坂を経て鎌倉へ通じる「鎌倉道」は、「鎌倉上の道」としてよく知られています。弘安5年(1282)、身延山を出て、生涯最後の旅に出た日蓮が、池上で入寂(※)し、荼毘に付され(※)、遺骨が身延山へ向かう途中、飯田に泊まり、その跡に本興寺が建てられたという日蓮ゆかりの道でもあります。江戸期には、江ノ島・鎌倉への参詣の道「鎌倉道(藤沢八王子道)」として、また、暮らしの道として賑わいました。この古の街道には、本興寺や飯田神社などの寺社をはじめ、史跡・石造物などが多くあり、私達に歴史を語りかけてくれます。また、せせらぎ緑道や、上飯田西公園などの憩いの場もあります。

(※) 入寂：高僧の死をいう。 荼毘に付す：火葬にする。

1 庚申塔



和泉町4730番地ガソリンスタンド前に、延宝5年(1677)と文化13年(1816)造立の庚申塔が2基あります。泉区内の石造物としては、庚申塔がおおよそ100基と最も多く、庚申信仰が盛んだったことが分かります。庚申信仰は、十干十二支の庚申の日に信仰の仲間(講)の人々が身を慎み夜を過ごすという信仰で、庚申講の人々によって建てられたのが庚申塔です。

2 中和田公園



春は満開の桜、夏は木洩れ日のさす中和田公園は、地域の人々の憩いの場所になっています。明治38年(1905)持田製糸工場の社主持田初治郎が寄付したこの土地は、招魂社と呼ばれ、西南の役から第2次世界大戦までの戦死者の忠魂碑、日露戦役で戦死した石井広助、中和田小学校初代校長の山田専成、2代目の校長山田豊次郎、持田初治郎の顕彰碑が立っています。

3 無量寺



帰命山長寿院無量寺は、『新編相模国風土記稿』には善如(承応2年(1653)寂)が開山とあり、寺伝では鎌倉安養院第19世深誉呑盡上人が文禄2年(1593)に開創したと伝えられています。また伝承では、初め他所に創建されたが、天災により倒壊したため、現在地に移転して再建されたと言われています。境内には、元徳年間(1329～32)の板碑が安置されています。

4 渡井家のイヌツゲ



「鎌倉道(藤沢八王子道)」沿いのイヌツゲの垣根は、昭和49年、市の名木古木に指定されました。イヌツゲの樹齢は240年ぐらいと言われていますが、現在のように整備されたのは、現当主の祖父のときです。近くの上飯田団地の西端に地域の鎮守神社、南端に小曲寺跡があります。

5 飯田神社



飯田神社は、境川沿いに多く見られるサバ神社の一社です。祭神は、左馬頭源義朝を主神に宇迦之御魂大神・大山咋大神です。伝承では、上飯田の柳明から寛文12年(1672)、現在地へ遷されたと言われています。神楽殿は、明治20年(1887)頃、飯田学校の校舎として使用されていました。境内からは縄文後期の注口土器が出土しました。

6 上飯田西公園



公園自体が広いので、子連れで遊ぶのにおすすめです。また、お弁当持参で行ってのんびりお昼を食べるのもいいでしょう。

7 本興寺



日蓮宗別格本山の寺で、鎌倉の本興寺が幕府の弾圧に遭い、万治3年(1660)、日蓮ゆかりのこの地に移転したと言われています。55代住職日感の時、現在の本堂が再建(明治4年・1871)されました。本堂の釈迦・日蓮・日竹の一代記や七福神の彫刻は素晴らしいものです(非公開)。墓地には寺子屋師匠の筆子塚が3基あり、境内には中屋敷の鎮守さまである天満宮があります。

8 せせらぎ緑道



「鎌倉道(藤沢八王子道)」沿いに台村・坂の台・中屋敷・いちょう団地まで整備された道を「せせらぎ緑道」といい、地域の人々のやすらぎの場所になっています。また、本興寺から羽太郷土資料館付近の五軒庭プロムナード、上飯田と大和市上和田を結ぶ「ふれ逢い橋」は、地域交流の場となっています。

9 羽太郷土資料館



羽太郷土資料館は、羽太俊一氏(故人)が私財を投じて「鎌倉道(藤沢八王子道)」沿いの羽太氏の屋敷跡に開設しました。資料館はしばらく休業中でしたが、平成28年(2016)10月に再開を予定しています。資料館には泉区内外から寄贈された古民具などが数多く陳列されています。

10 石井仁左衛門翁之碑



五軒庭バス停の近くの墓地内に「石井仁左衛門翁之碑」と刻まれた碑が立っています。嘉永4年(1851)に、斎藤庄兵衛の次男として生まれ、石井家の養子となり、2代目仁左衛門を継ぎました。中和村村長や県議会議長を歴任するかわら「北部金蘭会」を組織し、農村を離れ自立していく青年の教育に尽くした人です。

11 柳明神社・観音堂(大石寺跡)



むかしここに観世音菩薩像を安置した大石寺がありました。明治初期に廃寺になったので、村境の伊勢山に祀ってあった神社をこの地に遷して、柳明の鎮守としました。その後、村に不幸が続いたため、阿久和の観音寺に預けていた観音像を戻して、境内の観音堂に安置しました。大石寺(現、観音堂)の観音像は、旧鎌倉郡三十三観音二十四番札所です。

12 地神塔(神奈川道・八王子道道標)



柳明神社脇に地神塔が立っています。春分・秋分の日に最も近い「戌の日」を社日としました。この日は、農作物の豊作を願って、仕事を休み、土地神を祀りました。地神塔は地神を信仰する仲間(講)により建てられました。この塔は、神奈川道・八王子道の道標にもなっています。

1 鎌倉道・日蓮ゆかりのコース

地図  のルート

～ 上飯田 古の街道と史跡を訪ねて～

- スタート
いずみ中央駅 — ① 庚申塔 — ② 中和田公園 — ③ 無量寺 — ④ 渡井家のイヌツゲ — ⑤ 飯田神社 — ⑥ 上飯田西公園 — ⑦ 本興寺 — ⑧ せせらぎ緑道 — ⑨ 羽太郷土資料館 — ⑩ 石井仁左衛門翁之碑 — ⑪ 柳明神社・観音堂 — ⑫ 地神塔 — **上飯田車庫** ゴール



A-3 二十三夜塔
 月待行事は、十三夜・十五夜・十七夜・二十三夜・二十六夜など特定の日に、信仰する仲間（講）が集まり、飲食を共にしながら、月の出を待つ行事で、一番盛んに行われたのが二十三夜の月待（祭）であったようです。上飯田では二十三夜の月待が行われたのでしょう。



A-4 甲子塔
 上飯田町台村内会館前の鎌倉道沿いに「甲子塔」と刻まれた石碑が立っています。甲子日待は、甲子の夜、禍を転じて福を授けてくれる大黒様を祀り、夜おそくまで仲間（講）の人々が飲食を共にし語り合う行事です。日蓮が大黒様を信仰していたことから、日蓮宗の僧の指導のもとに、甲子日待が盛んに行われました。

C-4 神奈川県サッカー協会フットボールセンター(愛称:かもめパーク)

かもめパークは、平成26年12月にオープンしました。敷地面積約2.7ヘクタールにサッカーグラウンド1面とフットサルコート2面、クラブハウスが整備され、グラウンドには、UEFA(欧州サッカー連盟)チャンピオンズリーグでも使用され、環境にも、選手にも優しい人工芝(イタルグリーン・ターフ)や省電力LED照明が採用されています。



ウォーキング コラム

② 歩く時のポイント

自分が「ややきつい」と感じる強さで運動することで、安全に持久力を向上させることができます。

- ・いつも歩いているよりも早めに
- ・ちょっと息がはずむが、笑顔が保てる
- ・5分程度で汗ばむ
- ・少しずつ何回かにわけて、こまめに水分補給をしましょう。
- ・めまい・冷や汗・吐き気・胸痛・息切れなど不調を感じたらウォーキングを中止しましょう。

2 険の母・ほしのや道コース

地図  のルート

～ 和泉川北部 静かな順礼の道歩く～

- スタート
いずみ中央駅 — 泉区役所・泉公会堂 — 和泉遊水地 — ① 佐婆神社 — 正法寺 — ② 長谷川伸実母の生家「横山家」 — ③ 八幡神社 — ④ 日枝神社 — ⑤ 横山家のケヤキ — 柳明バス停 — ⑥ ほしのや道 — 松陽高校 — ⑦ こどもログハウス・いずみ台公園 — **いずみ野駅** ゴール



小曲寺の阿弥陀様(1コース)

むかし、今の上飯田団地の南端に、小曲家の菩提寺である鶴島山小曲寺がありました。江戸時代の末、この寺が廃寺になると決まった時、一族の人々は本尊の阿弥陀様をどうするか相談し、名瀬の西蓮寺に預けました。ところがある夜、阿弥陀様が一族の長の夢枕に立て「どんな粗末なお堂でもいいから元のところへ安置してほしい」と訴えたそうです。そこで、一族の長はさっそくみんなと相談してお堂を建て、阿弥陀様を西蓮寺からお迎えました。現在も団地の入口付近の墓地に、阿弥陀如来像を祀ったお堂があります。 — 「いずみいまむかし」 —

五軒庭(1コース)

むかし、五代將軍綱吉が「生類憐みの令」を定めた頃、上飯田の柳明に五十石の土地を領する郷士の羽太忠兵衛がいました。当時この付近では、毎日猪が出て畑を荒らしていましたが、猪を殺すと厳しく罰せられるので、農民達は泣き寝入りしていました。そこで忠兵衛は意を決し、猪を台村付近の山林に追い込み、殺してしまいました。そのことが幕府に知れ、忠兵衛一家は全員処刑され、土地も没収されました。しかし、忠兵衛の義心を憐れんが、二十五石が払い下げられ、5軒の家で五石ずつ分けました。以後その辺を五軒庭と呼んだということです。 — 「中和田郷土誌」 —

大石寺の十一面観音(1コース)

むかし、柳明に大石寺というお寺がありました。行基(奈良時代の僧)の作と伝えられる十一面観世音菩薩像を本尊とし、鎌倉郡観音三十三札所の二十四番札所としても有名で、よその村からも多くの人がお参りしていました。明治初期、無住寺になったとき、本尊の観世音菩薩像は新橋の観音寺に預けられました。その後、村に不幸な出来事がたびたび起きたために、村の人たちは相談して柳明神社の境内に観音堂を建て、その観世音菩薩像を安置したということです。 — 「中和田郷土誌」 —

